

絶対イエス(マルコ 3:20-30)

神様の恵みによりイエス様を信じる信者になりましたが、信者それぞれ様々な問題を抱えて生きています。個人的な悩みを抱えて誰にも言えない、そういう問題を抱えている人がいるでしょう。あるいは家庭の複雑な問題、職場での問題、人間関係の問題、また健康や経済の問題など、様々な問題を抱えて悩んでいます。しかし、その人が信者であれば、本当の問題はその問題のゆえにイエス様を信じる信仰が揺れてしまうことです。また、信仰から離れたりすることが実はクリスチャンにとって本当の問題だということをぜひ心に覚えましょう。そして、なぜ問題のゆえにイエス様を信じる信仰が揺れてしまうのかと言いますと、その人がイエス様を信じてはいるのですが、その信仰が絶対信仰でないからです。イエス様を信じるという幸いな人にはなりませんが、絶対イエスにはまだ実際にはなっていないので、何かの問題があれば信仰が揺れるようになるしかありません。また、何か良いものがあればそれに気が囚われてイエス様から遠ざかるようになってしまいます。今日の聖書の箇所を見ますと、イエス様のいやしを求めて多くの人々が押し寄せてきました。そこにイエス様の親族の人たちがそれを止めるために来ました。なぜかという、イエス様は気が狂っているという噂を真に受けて、イエス様がこれ以上、いやしの働きができないよう止めるために来たわけです。律法学者やパリサイ人たちは、イエス様が人から悪霊を追い出し、いやしが現れることはベルゼブルという悪霊のかしらの力を借りてやっていることなんだ。だからイエスは悪霊に取りつかれている者だというふうに言っていました。そこでイエス様は、論理的にサタンがサタンを追い出すということは、そのサタンの国、世界が崩壊してしまうのではないのか。家が内輪揉めするとその家は駄目になるだろう。それはあり得ないことじゃないのか。ただ一つ合っていることは、その家を略奪するためには、家を守っているものより強い力を持って縛り上げることで略奪することが可能になる、それは合っている。イエス様は聖霊の力によって悪霊を追い出し、その結果、いやしのわざが現れたことなんだということをお話しされました。それをおっしゃりながら、イエス様がとても恐ろしいことを言われます。世の中にあるどんな罪も赦されないことはない。たとえ神様を汚すような発言をしたとしても、誰でもイエス・キリストを信じるようになれば、その人のその罪は赦される。しかし、聖霊を汚すような罪、そういうことは永遠に赦されることができないということをおっしゃいました。このような場面を通して、イエス様が悪霊に取りつかれていやしの働きをしているんだというユダヤ人の発言に対してイエス様はそのようにおっしゃいました。世の中に赦されることのできない罪などは本当にあるのでしょうか。イエス様はそのような罪があるとおっしゃっています。どのような罪が赦されないのでしょうか。実は聖書が私たちに教えていることは、世の中にどのような罪も、私たちが考えたときには到底赦されないだろうと思われるひどい罪も、イエス・キリストの前で赦されないものは何一つありません。しかし、そのイエス様を信じることができないように邪魔すること、そして、最後の最後まで赦しの唯一の希望であるイエス様を信じることを心から拒否する人、そこには赦される可能性などは残りません。聖霊を汚す罪というのはそういう意味なのです。聖霊様がなさる働き、メインの仕事は何かというと、人間が赦されて救われるための唯一の道であるイエス様を信じさせることです。そこを邪魔して最後の最後までイエス様を信じることを拒否する人、そこはどのようなこともできないのではないのでしょうか。そういう意味です。イエス様を信じることを拒否すること以外に、赦されない罪は存在しません。しかし、どんなひどい罪も赦されますが、イエス様を信じない限りはしかたがありませんという意味でイエス様を信じることは絶対なんだということをおっしゃっているわけですね。

今日、礼拝を捧げているレムナント教会の信徒ひとりひとりの皆さん、イエス様を信じることは絶対なのです。その意味を改めて考えていきましょう。

まず第一に、イエス様は人生の唯一の希望であり、最初で最後の希望なのです。だからイエス様は絶対なのです。

使徒 4:12 のところでペテロは、世界中に私たちが救われるべき名としてキリストの他にどのような名も与えられたことはありません。イエス様だけが救いの道なんだというふうに叫びました。イエス様ご自身もヨハネ 14:6 で「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでな

ければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません」。イエス様だけなんだということをおっしゃいました。改めて申し上げます。イエス様は人生の唯一の希望であり、最初の希望であり、最後の希望なのです。もちろん人間は自分なりに努力します。また修行を重ねる場合もあります。そうすると努力によって、また修行することで変化を見ることもあるし、ある程度の結果も得られるようになります。それを否定するつもりはありません。しかし、どんなに努力して修業を重ねても死んでいるたましいと地獄の運命をなくすことはできません。死んでいるたましいが生かされて地獄の運命から逃れることは努力や修行などでは一ミリたりとも不可能なのです。なので、世の中にいる人々は努力、修行などによって最終的には疲れて重荷を負うようになるしかありません。なぜ頑張っても努力しているのにこうなってしまうのだろうと皆疑問だらけになるでしょうが、このような理由があるからなのです。だからイエス様を信じることは絶対なのです。国には立派な政治家が求められます。立派な政治家が現れるとその国はより安定するようになるかもしれません。また、より豊かになり、国は発展を遂げるようになるかもしれません。それは否定しません。しかし、どんなに立派な政治家が現れても、その国にある霊的な問題と押し寄せてくる災いを止めることはできません。だから、どのような国も必ず時間が経てば必ず滅びを迎えるようになります。それが今までの歴史を通して証明された事実ではないでしょうか。歴史の勉強を少しでも素直にした人であれば認めざるを得ません。だからイエス様は絶対なのです。そして、科学が発展すれば、宇宙旅行も可能になります。また、ロボット、AIなどによって生活がすごく便利になるのはもちろんだと思います。また、指一本ですべてが可能になる、そういう社会になるかもしれません。それを否定するつもりはありません。しかし、科学がどんなに発展しても目に見えないサタンの世界と悪霊に対しては何もできないのです。それで最終的にはバベル塔が崩壊したように崩れ落ちてしまうようになります。それがこの世界の運命なのです。なのでこの地球の希望、人生の希望、真の希望はキリストだけなのです。キリストだけが悪魔サタンの頭を踏み砕いて、地獄とのろいの運命を踏み砕いて、神様を離れて罪によって地獄に行くしかない人々を神様に会うことができるように、いのちを与えることができるようになる唯一の方なのです。そして、今日聖書に登場されますイエス様こそがそのキリストなのです。だからイエス様は絶対イエスなのです。相対的ではありません。絶対なのです。ほかの宗教やほかの理論やほかの道徳やほかの法則などと比べて考えられるような次元の方ではありません。どんなに良いことがあろうが、どんなに頑張っても結果が手に入ったとしてもイエス様は絶対なのです。ほかのすべては相対的なものなのです。今日の聖書の箇所がそれを私たちに語っているのです。聖霊を汚す罪は赦されることができない。イエス様を信じない限りは何がどうであろうが希望はありません。絶対なのです。たとえばイエス様の肉の家族、親戚であってもイエス様を信じない限りは家族ではありません。今日読んでいない今日の聖書の次の部分に弟子たちがイエス様にこのように報告します。「イエス様、あなたの家族、兄弟たちが来ました」「誰がわたしの家族で、誰がわたしの兄弟なのか。ここに居るわたしを信じて、わたしをキリストと告白している、この人々がわたしの家族なんだよ」とおっしゃっているのです。イエスは絶対なのです。たとえ肉の家族であっても家族になりません。イエス様を信じないと何の希望もありません。少し知識のある人、経験豊富な人、勉強がすごい人々はこういう話がとても嫌なのです。複雑に様々なことを考えたいのに、イエス絶対と聖書が言っているから、信じないで離れていくわけです。でも、イエス様は絶対です。良い人なのか悪い人なのか、それはすべてイエス様によって決められることです。イエス様は絶対です。

イエス様が絶対なので二番目です。イエス様を信じる信仰は絶対なのです。

これはどういう意味なのかと言いますと、イエス様を信じるか信じないかに対しては選択の余地などありません。信じてもいい、信じなくてもいい、そういう方ではありません。イエス様は絶対なのです。だからイエス様を信じるとどのような罪でも赦されます。しかし、イエス様を信じないと一つの罪も赦されることはありません。絶対なのです。イエス様を信じると誰でも天国に入れます。しかし、イエス様を信じないと誰でも天国に入ることはできません。自分の命をささげて人を助けた人間でもイエス様を信じない限りは天国とはまったく無縁なのです。絶対なのです。イエス様は絶対です。だからイエス様を信じる人は、どのような罪を犯したとしても赦されます。しかし、どんなに善良な市民として一つの嘘もつかないで、人のために人生を費やして尽くした人間でもイエス様を信じない限りは罪が赦されることなどは一つもありません。世の中ではこういう話を嫌うのです。でもこれが真理で真実なのです。イエス様は絶対なのです。問題は教会に通ってイエス様を信じると告白し

ているクリスチャンの私たちが、イエス様に対してこのような絶対の信仰になってないし、ある場合は絶対イエスを恥ずかしく思うのです。無知な人間の発想のような感覚を持つ場合があります。それは悪魔のささやきなのです。イエス様が絶対でないといひとつひとつの問題に、ころころ変わる環境にすぐに振り回されるようにならざるをえません。イエス様は絶対なのです。グレーゾーンのようなものは存在しません。イエス様を信じる信仰の中に信じても信じなくてもまあ...ということはありません。なのでクリスチャンの場合は、例え自分のすべてを失ったとしてもイエス様を信じる信仰から離れる理由にはなりません。イエスを信じる信仰は絶対です。そして、どのような苦難がやって来て、どんなに苦しいことがあっても、苦しいからといってイエス様を信じる信仰が揺れるような理由にはなりません。イエスを信じることは絶対なのです。絶対の意味が何かをしっかりと理解して自分のものにしましょう。例え死が訪れて来た、死の恐怖の前に来たとしても、だからといってイエス様を信じる信仰から離れる理由にはなりません。イエス様を信じることは絶対なのです。どんなに酷い迫害があったとしても、それで死刑になる場合もあるし、獅子の穴に入れられて食われる場合もあるかもしれませんが、だからといってイエス様を信じる信仰が揺れたり、その信仰から離れる理由にはなりません。これを絶対イエスと言います。世界中が荒れ果てたとしても、イエス様を信じる信仰が揺れる理由にはなりません。私がどんなに酷い過ちを犯した、どんなに大きな失敗をしでかしたとしても、悔い改めなければいけないでしょうが、だからといってイエス様を信じる信仰がふらふら揺れるような理由になってはいけません。世界中の人に嫌われて世界中の人に指差されることがあっても、だからといってイエス様を信じる信仰から離れる理由にはなりません。イエス様を信じる信仰は絶対なのです。教会にも様々な問題があります。教会に問題があることは普通だと思わないといけません。問題だらけの人間が神様の恵みによって集められたところが教会なので、教会に問題があるということは普通なのです。教会にどのような考えられない、信じられない問題があったとしても、それが私がイエス様を信じる信仰から離れる理由にはなりません。たとえ天が崩壊したとしても、私がイエス様を信じる信仰から離れる理由にはなりません。つまり、世の中に宇宙にどのようなことがあっても、イエス様を信じる信仰が妨害されるような材料になるものは何一つ存在しないということですね。絶対イエス。イエス様を信じる信仰は絶対なのです。ただ、私たちは今申し上げました内容にぶつかると、すぐにそれが不信仰になる材料だと思い込む習性が身につけているのです。そこを素直に認めて気を付けていかないといけません。だから祈るわけです。私たち自分の力ではできません。もともとそういう習性が身につけているから。親がおかしいとイエス様を信じる信仰がまたふらふらする。誰かに憎まれたときには、イエス様を信じる信仰がまたふらふら揺れるわけです。イエス様を信じる信仰には絶対何物も触れてはいけません。絶対です。天が崩れたとしてもクリスチャンの信仰の心は折れてはいけません。なぜなら絶対イエスだから。イエスを信じる信仰は絶対なのです。このような内容が絶対イエスという意味なのです。

このメッセージをしっかり握ってひとりひとりが自分の信仰を省みる機会になればいいかなと思います。自分のイエス様に対する信仰はどういうものなのかということを実際に改めて見ていただきたいと思います。本当に私がイエス様を信じる信仰は絶対なのか。何かがあれば崩れるものなのか。信じてみようかな、別によさそうに見えるから...という信仰なのでしょうか。信じてみようかなでしょうか。あるいは条件付きの信仰なのでしょうか。こうなるから信じて、もしそうならないとまたつまずいて信仰から離れるつもりなののでしょうか。皆さんの願いが何でしょうか。自分の願い、自分の性に合うから信じて、もし願いが叶わない場合は、また自分の願いのために有利な方に移動するつもりで信じているのでしょうか。条件付きの信仰なののでしょうか。それは絶対とは言えません。悪魔にとってそれは何の脅威にもなりません。へっちゃらなです。一生自分のおもちゃにできるわけです。クリスチャンなのに信じてみようかな、又、条件付きの信仰であるならば。またレムナントの皆さんは、親が教会に行くので、私を連れて行ったので、だから教会に行っている、そういう信仰なのでしょうか。すると、親が教会をやめると私もやめましょう。親がイエス様を信じて賛美しているので、私もそれについて一緒に賛美するだけであって、親が賛美をやめれば私も賛美をやめるよ。そういう信仰なのでしょうか。親がたとえイエス様をのしりながら教会から離れたとしても、私はイエス様を絶対信じないといけません。親の信仰から独立しないといけません。先週も申し上げましたように、親はきっかけなのです。皆さんの信仰の主はイエス様です。イエス様と一対一でコンタクトを取らないといけません。絶対なのです。教会の牧師がたとえ過ちを犯したとしても、皆さんの信仰が揺れてはいけません。自分がイエス様を信じる信仰は絶対です。なぜなのでしょう。イエス様が絶対だから

ら。2部の礼拝でなぜイエス様が絶対なのかということをもた確認していきますけれども、とにかく神様の恵みによりみことばによってしっかり確認して、揺れない根拠を元にして自分の信仰がこれから死ぬ時まで世界中で自分の身の周りに何が起きても、何がどう変わろうが、それとイエス様を信じる信仰とを結びつけてはいけません。逆に絶対イエスなので、イエスをさらに強く握って、その変りつつあるすべてを光に変える勝者にならないといけません。これがクリスチャンです。

それでイエス様をキリストと信じる信仰を邪魔するものがあれば、それがどんなものであろうが100%それは悪霊のしわざだということを断言して退けるようにしないとダメです。それがイエスは絶対という信仰の告白なのです。Ⅱコリント4:4には「その場合、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです」と明確に聖霊を汚すもの、つまりイエス様の栄光の光をくらませるものは100%悪霊の働きだと言っています。それがどんなにりっぱな最もな理論であろうが下手な理論であろうが100%悪霊のしわざだということ忘れてはいけません。だから迷わずに退けないといけません。どんなに甘い誘惑であっても。あなたがたがこれを取って食べるそのときに、あなたがたは神になるよと。そんなにすごいことがどこにあるのでしょうか。それがイエス・キリストを隠すものなので、悪霊のしわざだったということは明白です。イエス様にまで来てイエス・キリストをくらませて世界中の栄光をあなたにあげるから私にお辞儀をなさい。私を拝みなさいとサタンが誘惑したわけです。全部悪魔、悪魔の誘惑なのです。進化論がどうのこうの。瞑想がああこうだと。人間の内側に神がいるから、自分啓発によって人生成功するよ。全部キリストが隠されるのです。悪霊のしわざなんだということを知って100%迷わず退けるようにしましょう。

それでイエス様をキリストと信じる信仰を絶対として心に刻印しましょう。天国と地獄との間を行き来するような信仰はダメなのです。絶対なのです。イエス様を信じる人は天国、信じていないものは地獄なのです。その間の曖昧なグレーゾーンみたいなものはありません。また、自分がイエス様を信じているのに、天国なのか地獄なのか混乱する理由などは一切存在しません。なぜそうなるのでしょうか。絶対になってないからです。だから絶対を刻印してどのような状況でも私は天の御国の民なんだということを隠し持つように。イエス、天国。絶対なのです。曖昧な部分がありません。それでイエス様が弟子たちに最後におっしゃったように植民地がどうであれ、今の個人的な事情が弱さがどうであれ、どんな問題を抱えていようが、過去がどうであれ、そういうことはもはや関係ない、イエスを信じたのであなたがたは天国なんだ。だから、それを知らなくてもいいよ。その天国の祝福、聖霊が臨まれるとすべてを超越して勝利者になれるよとおっしゃったわけです。それは絶対でないといけません。皆が曖昧なのです。そこに入りましょう。その約束を握ってマルコのタラップンで祈りに専念していたように。なぜ専念できたのでしょうか。絶対だから。明日死ぬことがあっても祈れるわけです。なぜなら絶対だから。私は絶対天国なんだ。神の国が私のもので今死んでも天国に行けるし、今神の国、天国が私のうちにとどまっているし、それに曖昧なところがあってははいけません。皆さんがどんなに弱さを抱えて、ほかの人と比べたときに、覚えるところがどんなにたくさん抱えていたとしても、だからといって天国なのか地獄なのか曖昧なそういうことはありません。絶対イエスです。イエス様を信じる皆さんは絶対天国を所有しているし、だからこそ地上で何がどうであろうがあなたがたは知らなくていいよ。あなたは天の御国の市民なのだから。聖霊が臨まれると力を得て、地の果てにまで生かす証人となれるから。「あっ、そうだったっけ。祈りに専念しよう。明日死ぬことがあっても天の御国は私に臨まれました。天の御国のわざが私を通して現れるように。御国が輝くように。なぜならイエス＝天国、イエス絶対。だから私天国」。最後に興奮して中国人が話す日本語みたいになりました。サタンはこのようにシンプルなのに、これが味わえないように、これを味わったとすればサタンの国がバンバンと崩れていくようになるので、皆さんの現場に暗やみの力がどんどん砕かれて行くようになるはずなのです。それを恐れてここにたどり着けないように一番の良い方法はイエス様を信じて絶対にならないように邪魔するわけです。あらゆる世の流れやいろいろな理論や経験など、また自分のレベル、感情全部総合的に合わせてとにかくイエス様を信じたことはしょうがないが絶対イエスにはなれないようにします。だから文句、言い訳など理由が多いのです。もちろん先ほども申し上げましたように。ひとつひとつのことを無視するわけではありません。でもだからといってそれがイエスを信じる信仰に触れるような材料にはなりません。これをぜひ心にしっかりとめましょう。今まではそうでなかった。ついつい何でもかんでも何かあるたびにそれをイエス様を信じ

る信仰が揺れるための材料にする習性と親しく仲良く歩いてきたんだねということ、それを悔い改めるのが悔い改めなのです。これからは何がどうであろうが、私の一番信頼していた人が私を裏切ることがあっても、むしろイエス様こそ絶対なので、すべてが相対的だったということが明らかにされる場面なので、さらにイエス、さらにイエスになる材料でしょう。世の中に皆さんがどれほど信頼を置いているもの、人、理論であろうが、全部が相対的なのです。この地球の最後の日は、全部火とともに燃えて消えてなくなるようなものだけなのです。どのような制度も理論も。残ることはイエスしかありません。イエス絶対なのです。イエスを信じる信者、絶対なのです。イエス、天国なのです。だから皆さんは天国の市民です。間違いなく天国の市民なのです。そこを絶対にしないとけません。だからよく考えてみてください。本当に惨めな人間ばかり集まって迫害されて教会に集まると殺されたり、あるいはすべて失うしかない状況の中で、イエス様がそれはあなたが知らなくてもいいよ。ここでもあなたがたは勝利できるよと。何を根拠にしてでしょうか。イエスが絶対イエスだから。イエス様はキリストなのです。イエス様は今も生きていらっしゃいます。イエスの中に天の御国があります。イエスを受け入れた皆さんの内側に天の御国を所有しているからあなたがたは幸いですと言われていきます。だから迷わずに、躊躇せずに、それを絶対として握ってください。地上に何がどうであろうが神の国を絶対に握って味わう勝利のクリスチャンになりましょう。神の国は皆さんものなのです。これは絶対です。うちのお父さん酔っ払いなんだけど。うちは貧乏なんだけど。私イジメられていますよ。私本当は人には言えない嫌な習慣で悩んでいますよ。なかなか治りません。何が天国でしょうか...と言いたいでしょうけれども、だからこそイエスなのです。絶対イエスです。それはこのイエス様を信じる信仰から遠ざかる理由ではなくて、さらにイエスを強く握るべき材料なのです。そして、イエスを信じている者にはどんな事情があろうが、天の御国がその人のものなのです。だから御国が輝くように、皆さんの心と思いと脳とたましいに御国の力が現れるように祈る資格が皆さんにはあります。そこを邪魔されないように。そこを騙されないように。イエス、絶対。絶対イエス。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。私たちがこの世にいる間は、この限界のある肉体を持って、またサタンが操っているこの世の中を歩いているので、様々な問題を抱えて歩いています。しかし、イエス様を信じる信仰は絶対であるということを確認して、揺れることなく、むしろそのすべてが絶対イエスをさらにさらに強く握る材料として働くように、それでみんなが神の国に集中できるように祝福を与えてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン